

関係各位

NPO法人 都市災害に備える技術者の会



『防災講演会』のご案内

NPO 法人都市災害に備える技術者の会では、防災講演会を下記のとおり開催いたします。

昨年9月に発生した「関東・東北豪雨 鬼怒川決壊」はまだ記憶に新しいところです。

今回は京都大学防災研究所社会防災部門 教授 多々納裕一氏をお招きして『新たなステージに対応した防災・減災の推進について～水防災意識社会の再構築～』についてお話していただきます。

日常業務多忙のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上ご参加いただきますようご案内申し上げます。

記

主 催：NPO 法人 都市災害に備える技術者の会

後 援：日本技術士会近畿本部建設部会
日本技術士会近畿本部防災研究会
泉南市防災技術者の会
神戸防災技術者の会(K-TEC)
公益社団法人 大阪技術振興協会

日 時：平成 28 年 10 月 15 日(土)
13 時 30 分～16 時 30 分

場 所：大阪府立男女共同参画
青少年センター(ドーンセンター)
セミナー室①

住所：大阪市中央区大手前 1-3-49

電話：06-6910-8500



テーマ：『新たなステージに対応した防災・減災の推進について～水防災意識社会の再構築～』

講 師：多々納裕一氏（京都大学防災研究所社会防災部門 教授）

参加費：無料

申込期限：平成 28 年 10 月 10 日 但し、会場の都合により先着 50 名とさせていただきます。

『防災講演会』参加申込書

NPO 法人都市災害に備える技術者の会 防災講演会に参加申し込みます。

申込日 平成 28 年 月 日

氏 名		勤務先	
メールアドレス		電話番号	

【申込先】NPO法人都市災害に備える技術者の会 事務局 太田宛

E-mail：office@toshisaigai.net

Fax：078-907-3123

新たなステージに対応した防災・減災の推進について

水防災意識社会の再構築



京都大学防災研究所社会防災部門 教授

た た の ひろかず

講師：多々納裕一氏

日時：平成28年10月15日(土)

13時30分～16時30分

場所：大阪府立男女共同参画・青少年

センター(ドーンセンター)

セミナー室①

大阪市中央区大手前1-3-49

電話：06-6910-8500

【講師略歴】

1961年 島根県出雲市生まれ

1986年 京都大学大学院工学研究科修了後、島根県土木部技師

1988年 鳥取大学工学部助手、1993年に同助教授

1997年 京都大学防災研究所助教授

2003年 京都大学防災研究所教授、現在に至る

○研究の主なテーマ 専門は防災経済学、災害リスク管理論。「総合防災学」の確立に向けて、「災害の社会経済的影響評価と災害リスクの軽減のための意思決定の方法論に関する研究」が主なテーマ

○委員等 ・社会資本整備審議会河川分科会（「気候変動に適應した治水対策検討小委員会」、「大規模はん濫に対する減災のための治水対策小委員会」）

・想定最大外力（洪水、内水）の設定に係る技術検討会

・滋賀県流域治水検討委員会 他

○著書 『総合防災学への道』（京都大学学術出版会）

『防災の経済分析』（勁草書房）他



【講演概要】

～今後の想定される最大外力」に対してどう備えるか～

近年頻発する水害を受けて、国土交通省の社会資本整備審議会河川分科会などにおいて、「想定される最大外力」の設定検討や「大規模はん濫に対する防災、減災のあり方」が検討されています。またこれらの検討を反映して、水防法の改正なども頻繁に行われていますが、地域防災関係者、たとえば自治体職員、建設技術者あるいは住民の理解が、これらの動向に対して十分、追隨しているのでしょうか。あまりにも目まぐるしく変化する状況に取り残されているのが現状ではないでしょうか。

一方、災害は、そんな状況に容赦なく、待ったなしのように来襲します。今、我々に求められるのは、外力の増大など、新たなステージに入ったと言われる災害を想定し、正面から向き合い、これに対応した防災、減災の考え方の背景、具体的な内容を理解するとともに、単なる知識に留めるのではなく、災害に備えて、いざという時に行動できるよう、日常から意識を高めておくことではないでしょうか。

今回の講演では、各種委員会に参画された多々納氏から、この間の経過や背景、また地域防災を支える各主体が果たすべき役割について、また具体的事例として住民と自治体の連携による地域防災力の向上を目指した先進的な取組である「滋賀県流域治水条例」についてお話いただく予定です。

「今後の想定される最大外力」に対してどう備えるか、みなさんと考えましょう。